

日本体育・スポーツ政策学会第34回大会 開催要項

【大会テーマ】 スポーツ政策の実装—スポーツ価値のデリバリー

【趣 旨】

2011年にスポーツ基本法が制定され、翌12年にはスポーツ基本計画が公表された。そして、2015年には日本のスポーツ政策展開の中核を担うことを期待されているスポーツ庁が設置された。スポーツの分野における政策形成の体制が整いつつあると言ってもよいだろう。また、この間、ラグビーのワールドカップや東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリパラ）などのメガ・スポーツイベントも実施され、スポーツに対する社会の関心も高まってきたと言える。一方、スポーツ政策の実施に目を向けると、国・自治体はもとより、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）や様々な公益法人、NPO法人、さらには民間企業などが強固な政策実施のネットワークを形成している。このように、スポーツ政策を取り巻く制度と活動は、大いに活性化している。

では、実際に社会においてスポーツの持つ諸価値が実現しているのだろうか。さらには、スポーツに関わる人も関わりのない人も、スポーツの意義を実感しているのだろうか。この点については、例えば東京オリパラでは、「レガシー」や経済効果を強調することが必要であったように、スポーツやとりわけスポーツ・イベントに対して疑問や否定的な意見を持つ人が少なからず存在している。東京オリパラ開催中はそれなりに盛り上がったものの、現在ではどちらかと言うと「負のレガシー」が取り沙汰されることも少なくないのが実情である。また、第3期スポーツ基本計画では、「スポーツによるまちづくり」が主要な施策に位置づけられたが、そもそも自助・共助・公助のバランスが求められる「まちづくり」活動において、地域コミュニティ（住民）、NPO、民間事業者等とスポーツ分野の組織・団体・関係者による協働体制の確立は容易でないため、成果につながっているケース（地域）はまだ少ない。

以上のような現状認識に立つなら、今こそ、スポーツ政策を通じてスポーツの諸価値が社会にどのように伝達され、どのような成果を生み出しているのかを検証する必要性があるのではないだろうか。すなわち、スポーツ政策が「誰が、誰に、何を、どのように伝達（デリバリー）しているのか」という「政策デリバリー・システム」について検討するとともに、政策がデリバリーされた結果について評価する必要があるだろう。さらに、その評価の結果をスポーツ政策の形成・決定にどのように活かしていくかについて議論することも必要である。

そこで、本学会大会では、スポーツ政策が想定する効果が社会に着実に伝達され、スポーツの諸価値が社会において実感されたり効用を生み出したりすることを「スポーツ政策の実装」とし、スポーツ政策の「実装」の現状と課題を学術的に解明することをテーマとする。具体的には以下の3点を中心に検討する。すなわち、①スポーツの諸価値が社会に伝達されるスポーツ政策のデリバリー・システムの実態や課題の検討、②デリバリーの結果として社会においてスポーツがどのような効果・効用を生み出したのかといった政策評価についての検討、そして③現在の政策に対する評価結果を政策形成（政策の企画・立案・決定）にどのように反映するべきかの検討などについて議論を展開することとする。

【内 容】

1. 会期：2024年11月30日（土）～12月1日（日）
2. 会場：同志社大学 今出川キャンパス 良心館 1階
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入ル（市営地下鉄烏丸線今出川駅すぐ）
<https://www.doshisha.ac.jp/information/access/index.html>
3. 主催：日本体育・スポーツ政策学会

4. 主管：日本体育・スポーツ政策学会第34回大会実行委員会

5. 日程：

<1日目：11月30日（土）>

- ・ 13:30～14:40 一般研究発表 I
- ・ 14:50～15:30 基調講演
- ・ 15:45～17:45 シンポジウム

<2日目：12月1日（日）>

- ・ 9:30～11:30 会員企画セッション
- ・ 12:30～16:00 一般研究発表 II

6. 大会プログラム

<1日目：11月30日（土）>

○基調講演（14:50～15:30）

「スポーツ政策の評価とマネジメントー慈善・協働・自立ー」
山谷 清志氏（同志社大学政策学部教授）

○シンポジウム（15:45～17:45）

テーマ：地域におけるスポーツ政策のデリバリー・システムはいかにあるべきか

1. キーノートレクチャー

「行政の立場から」

水谷 洋夫氏（京都市文化市民局市民スポーツ振興室スポーツ企画課長）

「スポーツ団体の立場から」

大濱 三平氏（NPO 法人スマイルクラブ 理事）

「研究者の立場から」

熊谷 哲氏（公益財団法人笹川スポーツ財団 上席特別研究員）

2. パネルディスカッション

コーディネーター：内藤 正和氏（愛知学院大学）

<2日目：12月1日（日）>

○会員企画セッションA（9:30～11:30）

テーマ：オリンピック・パラリンピックのレガシーの設定と評価

ースポーツ価値のデリバリーを実現する政策立案と政策評価とはー

趣旨説明 伊吹 勇亮氏（京都産業大学）

基調講演：パリ五輪のレガシーの設定と評価

山田 悦子氏（JSC 国際情報戦略部 主任専門職）

パネルディスカッション

コーディネーター：川戸 和英氏（情報開発研究所 代表）

「ロンドン五輪・東京五輪のレガシーの設定と評価」

伊吹 勇亮氏（京都産業大学）

「政策評価研究から見た五輪レガシー」

米村 慎吾氏（同志社大学大学院）

○会員企画セッションB（9:30～11:30）

テーマ：大学リソースを活用した中学校部活動地域移行の政策展開

ー京都市との連携事業についてー

趣旨説明 黒澤 寛己氏（びわこ成蹊スポーツ大学）

「部活動地域移行に期待することーオリンピックの立場から」 ※ビデオメッセージ

奥野 史子氏 (大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所 所長)
基調講演「中学校部活動地域移行の政策展開」
大野 雅史氏 (スポーツ庁 スポーツ戦略官)
本事業の概要説明」 菅 文彦氏 (大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所 副所長)
「京都市の中学校部活動地域移行の事業展開」
羽田 浩氏 (京都市教育委員会 体育健康教育室 体育課長)
パネルディスカッション及び質疑応答/閉会宣言
コーディネーター・進行：黒澤 寛己氏 (びわこ成蹊スポーツ大学)

7. 参加申込：

- (1) 申込締切：2024年11月16日(土)
- (2) 申込方法：次のURL上の申込フォームに必要事項を入力の上、送信してください。

<https://forms.gle/fT9Z3Fqx9SdqF3VB8>



- (3) 参加費：一般会員 4,000 円、学生会員 1,000 円、非会員 5,000 円、学生非会員 2,000 円
※学部生は、学生証を提示し確認された場合は無料となります。
- (4) 参加費等送金方法：大会参加費等のご請求と振込先の情報は、申込者に対して E メールでお知らせします。参加申込 Form には、請求等の連絡のため、E メールアドレス（ファイル添付が可能なアドレス）を、また郵送物を送付する場合がありますので、郵送先住所、連絡先電話番号をご入力ください。

8. 実行委員会・開催校事務局連絡先：

実行委員長・開催校責任者：真山 達志 (同志社大学)
全体進行管理担当：尾原 弘恭 (関西医療大学)
シンポジウム担当：内藤 正和 (愛知学院大学)
一般研究発表担当：平塚 卓也 (奈良女子大学)
会員企画セッション担当：沖村 多賀典 (名古屋学院大学)

開催校事務局：〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル
同志社大学政策学部 真山研究室 電話：075-251-3577

なお、大会に関するご連絡、お問い合わせは 34th@policy-study.net 宛の E メールでお願いいたします。

以上